

「ゆうゆうまつり」における実践

記入日：2016 年 6 月 30 日
西 由紀美

1. はじめに

「ゆうゆうまつり」は、奈良県内において比較的新しい公園での一日のイベントです。この公園はバーベキュー場、キャンプ場、スポーツ広場、研修室や多目的広場のある森の館からなります。園内には噴水があり夏は子供の水遊びに、また恐竜の形をした大型遊具も子供たちに人気です。キャンプ場は、”夜に靴などを外に出しておくとかタヌキなどがこっそり持っていったりすることがあります”と注意書きされていたりします。このイベントはネイチャーゲーム以外にロープスライダーやロープクライミング、ストラックアウト、スタンプラリー、農産物やクラフト、食事などの販売の店も並びます。

2. 当日の実践内容

参加対象は小学生以上、小学生未満は保護者と共に となっています。集まった参加者に聞いてみるとネイチャーゲームは初めてという人がほとんどです。その中で、このイベントに出店しているある団体さんからはいつも参加してくれて覚えていてくれます。

園内は広く坂も多いので平らな芝生の広場や木立の間などで実施しました。緑は多くていい所ですが、陰が少ないため夏の午後からの実施場所には頭を悩ませます。

2012 年は 1.5 時間、2014 年と 2015 年は 1 時間のプログラムです。

	2012 年 10 月 14 日	2014 年 8 月 30 日	2015 年 8 月 29 日
午前	ジャンケン落ち葉集め 木の葉のカルタとり 動物ヒントリレー ノーズ	ノーズ 動物あてゲーム しぜんのだいすきだいじさがし	カモフラージュ 森の美術館
午後	ジャンケン落ち葉集め 木の葉のカルタとり 動物ヒントリレー しぜんのだいすきだいじさがし	ノーズ 音いくつ コウモリとガ しぜんのだいすきだいじさがし	森の色あわせ カモフラージュ

2013 年は台風のため中止

3. 成果と課題

(1) 受付時・・・大きな説明看板効果？

参加については当日申し込み(2012 年は事前申し込みもあり)で、受付前にはネイチャーゲームについての説明看板が設置してあるのでその効果も大きいと思います。受付は主催者側でくださるのですが、私も下見や準備等以外はなるべく受付の近くにいます。チラシや園内放送でネイチャーゲームとあってもどういうものなのかわからない人が多いからです。受付で「ネイチャーゲームって何ですか?」と聞く人や説明看板を読んで参加する人もあります。他に「3歳でもできますか?」「大人も参加できますか?」「バギーでも行けますか?」というのがあります。それはこの公園には幼児や低学年の子どもの利用が多くファミリーで来園されるからだだと思います。

(2) 予想はしていても・・・

出足がわりとゆっくりしているため、午前中は比較的参加者が少なく午後からは定員オーバーになります。主催者から「何人までいけますか?」に対して定員の倍ぐらいまでを可能にしました。開始まで時間があるので他のものに並んでいたら時間が来て参加できないなど様々な理由で来られない人も出てくるからです。でも本当はたくさんの人にネイチャーゲームを体験してほしいからです。一緒に指導する指導員の経験から場所とアクティビティを考え直すこともあります。

特に午後になってくると人が増えるのと暑さの両面から、わずかな木陰には人が休み、平らな芝生の広場には日除けのテントが並びだします。午前中使っていたところが使えない、使えそうところで何ができるか 現場を見ながら考えることもあります。

(3) 大人をどう巻き込むか

大人の方も子供と一緒に申し込みはさせていただきます。暑い中ですからお疲れもあるでしょう。近くのベンチで見守ってくださる方も多いです。私としては一緒に体験してほしい気持ちでいっぱいです。

「動物ヒントリレー」の時、グループに大人の方も入ってほしいとお願いすると入っていただきました。また子供も「大人も来てほしいって」と呼んでくれました。

「コウモリとガ」の時、コウモリを大人の方にお願しました。

「カモフラージュ」の時は、私の中に”やはりそうだよ”の思いになりました。大人の方は1回目 後方から子供に付き添っているのか見ているのかわからないぐらい、2回目 先程より前に来て見始め見つけた個数を報告すると悔しくなり、3回目 しっかりと探すというパターンです。もちろん親子で手をつなぎ一緒に探す姿やバギーのままや抱いたままで「あったね」と小さな声で会話する姿もありました。

4. あらためて

今回、公園でのイベントにおけるネイチャーゲームはたくさんのプログラムの中のひとつでした。車の運転をしない私にはちょっと不便なところにある公園という認識でした。遊具や噴水などの設置してあるものやインターからの距離、実施時期などのことからいろいろな情報が得られると改めて感じました。参加してくれた子供たちの笑顔が大人たちをも巻き込む力になってくれると思いました。



説明看板



「カモフラージュ」の様子